



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

緑内障薬物の効果と遺伝子変化の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川瀬, 和秀 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/729

はしがき

現在、緑内障の治療には各種眼圧下降剤がある。しかし、それらの効果は症例によって反応の違いが大きい。ポストゲノム時代の研究として、最近は薬剤のターゲット分子として受容体の遺伝子が報告されてきている。それらの受容体遺伝子の SNP(single nucleotide polymorphism)と、薬剤の眼圧下降効果を検討した。今後、ゲノム創薬を中心とした、より効果的な薬剤の作成のためには、これらの受容体の遺伝子変化を解析し、その遺伝子変化に対応した薬剤の開発の必要性が考えられる。我々は、緑内障の原因を究明するため、緑内障の遺伝子診断の可能性について研究を行ってきた。研究内容は、緑内障遺伝子として最初に発見された MYOC/TIGR に続き、CYP1B1、PITX2、FOXC1、PAX6 といった遺伝子を日本人の様々な緑内障患者において検討してきた。今回は更に新しく発見された OPTN 遺伝子における日本人、欧米人の変異の頻度を報告した。

我々は、緑内障患者において、眼圧の日内変動がアドレナリン作用によることから、眼圧の日内変動の有無とアドレナリン β 1 受容体の SNP の有無を検討した。24 時間の眼圧測定により、午前中に眼圧の高い群と 24 時間を通じて眼圧変動が 2 mmHg 以内の群において、遺伝子検査の同意を得た後、末梢血を採取し、末梢血より DNA を精製し、直接シーケンス法にてアドレナリン受容体の遺伝子変化を解析した。その結果、残念ながら眼圧の日内変動と β 1 受容体遺伝子の変異 (SNP) に関係は認められなかった。現在、新たに緑内障学会のゲノム解析委員会を中心に緑内障発症関連遺伝子変異について検討を開始している。

最後に、本研究にご助力をいただいた研究分担者ならびに研究協力者に感謝の意を表しますと共に、研究費補助金をいただいたことに対し文部科学省ならびに関係各位に深謝いたします。